

(別記)

2019 年度山鹿市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は熊本県北部の内陸部にあり、市の北部の中山間地では水稲、露地野菜、たけのこ、栗、茶などが栽培されている。市の南部は平坦地域であり、すいか、メロン等の施設園芸や水稲や新規需要米などが栽培されている。全耕地面積に占める水田の割合は61%で、基盤整備率が73%となっており、土地利用型農業の生産性向上等をより一層進めていく必要がある。

一方、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられるため、生産組織に対しての農地の利用集積を進めていく必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

市内の約3,800ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、大豆・野菜を水田活用作物の主体として位置付け、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

関係者が一体となりながら需要に応じた生産に向けた取り組みを徹底する。また、食味ランキング等で実証された品質を活かし、安全・安心な主食用米を生産することにより、良食味で高品質のお米の産地としてのブランド化に向けた取り組みを強化する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米・米粉用米

今後、産地交付金を活用し、「多収品種（ミズ籽刈）での取り組み」を推進する。また、数量払いの導入により増収を目指すための栽培技術や施肥技術の向上を図り、併せて品質向上を目指す。そして、わら利用に取り組むことで畜産農家との結びつきを強化する。

イ WCS 用稲

契約先の畜産農家と結びつきを強化するとともに、産地交付金を活用しWCS用稲生産水田への堆肥散布の取組を支援することで資源循環を促し、適切な生産・管理に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦

実需の求める品種の作付拡大を推進し、一大主産地を目指す。また、産地交付金を活用して、土壤改良剤等の散布による品質向上を図り、担い手への作付集約支援や排水対策を推進しながら、担い手・ブロックローテーション等の取り組みを推進し、作付拡大と産地づくりを進める。

イ 大豆

鹿本地区を中心として、ブロックローテーションによる団地化による生産を図りながら、排水対策徹底による栽培管理遵守により、作付拡大と産地づくりを進める。

また、地産地消を推進し、高品質な生産物の安定的な出荷により販路拡大を目指す。

ウ 飼料作物

地域の畜産農家の飼料作物の自給率の向上により、安心・安全な飼料の確保と供給を図ることと併せて水田の利用率を高めるための取り組みを推進する。

(4) そば、なたね

産地交付金を活用し排水対策に取り組みながら栽培技術等の向上を図るとともに、二毛作の取組に対しても産地交付金での支援をおこなうことで現行の栽培面積を維持する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

山鹿市は、中山間地から平坦地の農地条件に適した農作物を生産しており、多品目にわたるため、産地交付金を活用し、それぞれ特色のある野菜等の栽培面積を維持していく。また、特に高収益作物等について地域基幹作物として推進を図る。

(6) 地力増進作物及び景観形成作物

水田農業の振興と水田の機能回復等に効果的であるが、今後は産地交付金を活用して、高収益作物への転換を図る。

(7) 不作付地の解消

不作付地の改善計画に基づき、農業者及び担い手と連携を図り解消に向けた取り組みを強化する。

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 前年度の作付面積 (ha) | 当年度の作付予定面積 (ha) | 2020年度の作付目標面積 (ha) |
|-----------|------------------|--------------------|-----------------------|
| 主食用米 | 2,125ha, 11,137t | 2,185ha, 11,405t | 2,190ha, 11,431t |
| 飼料用米 | 84.3 | 90.0 | 95.0 |
| 米粉用米 | 83.2 | 85.0 | 85.0 |
| 新市場開拓用米 | 0 | 0 | 0 |
| WCS用稲 | 495.3 | 500.0 | 500.0 |
| 加工用米 | 0 | 0 | 0 |
| 備蓄米 | 0 | 0 | 0 |
| 麦 | 555.8 | 560.0 | 560.0 |
| 大豆 | 117.1 | 120.0 | 120.0 |
| 飼料作物 | 271.3 | 280.0 | 280.0 |
| そば | 53.7 | 55.0 | 55.0 |
| なたね | 0.1 | 1.0 | 1.0 |
| その他地域振興作物 | | | |
| 野菜 | 263.5 | 270.0 | 300.0 |
| 花き・花木 | 29.2 | 30.0 | 30.0 |
| 果樹 | 74.9 | 75.0 | 75.0 |
| 雑穀 | 1.3 | 1.5 | 1.5 |
| 地力増進 | 32.0 | 35.0 | 20.0 |
| 景観形成 | 12.9 | 12.0 | 6.0 |
| その他 | 6.7 | 7.0 | 7.0 |

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は 522kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 用途名 | 目標 | 前年度（実績） | 目標値 |
|----------|------------------|----------------------------|-----------------|-----------|--------------------------|
| | | | | 2018年度 | 2020年度 |
| 1 | 大豆 （基幹） | 大豆団地化加算 （基幹） | 団地化大豆面積 | 70.1ha | 110.0ha |
| | | | 反収 | 188kg/10a | 195kg/10a |
| 2 | 麦・飼料作物 （二毛作） | 麦・飼料作物二毛作 加算 （二毛作） | 麦+飼料作物二毛 作面積 | 744.0ha | 765.0ha |
| | | | 水田利用率 | 110% | 111% |
| 3 | 飼料用米 | わら利用の取組 （飼料用米・基幹） | 飼料用米 | 17.9ha | 37.0ha |
| | | | わら利用取組率 | 21% | 61% |
| 4 | WCS用稲 | 資源循環の取組 （耕畜連携・基幹） | 資源循環の取組面 積 | 373.7ha | 410.0ha |
| | | | 資源循環の取組率 | 75% | 76% |
| 5 | 米粉用米 飼料用米 | 米粉用米・飼料用米 団地化加算 （基幹） | 米粉用米 | 23.6ha | (16.0ha) 25.0ha |
| | | | 飼料用米 | 17.2ha | (17.0ha) 18.0ha |
| | | | 10a当たり収量 | 585kg/10a | 600kg/10a |
| 6 | 麦（二毛作） 大豆（基幹） | 品質向上加算 （基幹・二毛作） | 取組作付面積（麦） | 333.0ha | (130.0ha) 335.0ha |
| | | | 一等級比率（麦） | 91% | 94% |
| | | | 取組作付面積 （大豆） | 23.4ha | 50.0ha |
| | | | 一等級比率 （大豆） | 10% | 25% |
| 7 | 米粉用米 | 生産性向上加算 （基幹） | 米粉用米取組 作付面積 | 74.5ha | 77.0ha |
| | | | 反収 | 585kg/10a | (570kg/10a) 600kg/10a |
| 8 | そば なたね | そば・なたね二毛作 助成（二毛作） | そば二毛作面積 | 22.0ha | 25.0ha |
| | | | なたね二毛作面積 | 0.0ha | 5.0ha |
| | | | 水田利用率 | 110% | 111% |

| | | | | | |
|---------|-----------------------------|-------------------------------------|------------------|---------|---------------------|
| 9 10 | 野菜・花き・花木 (基幹作物) | 高収益作物助成 (基幹) | 野菜・花き・花木 (露地) | 45.7ha | (65.0ha) 49.0ha |
| | | | 野菜・花き・花木 (施設) | 109.1ha | (55.0ha) 111.0ha |
| 11 | 野菜、雑穀、その 他作物(基幹作物) | 地域振興等作物等助 成(基幹) | 地域振興等作物 | 27.9ha | (16.0ha) 29.0ha |
| 12 | 地力増進作物・景 観形成作物 (基幹作物) | 営農再開準備期間助 成(地力増進・景観 形成作物)(基幹) | 地力増進作物 | 27.0ha | 0.0ha |
| | | | 高収益作物 | 0.0ha | 36.0ha |

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。(目標値の上段括弧書きは変更前の数字。)